

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成25年第I四半期（1月～3月）

設備投資：4期連続増加で回復傾向が続く

採算状況：小幅ながら2期連続で改善

資金繰り：小幅ながら悪化

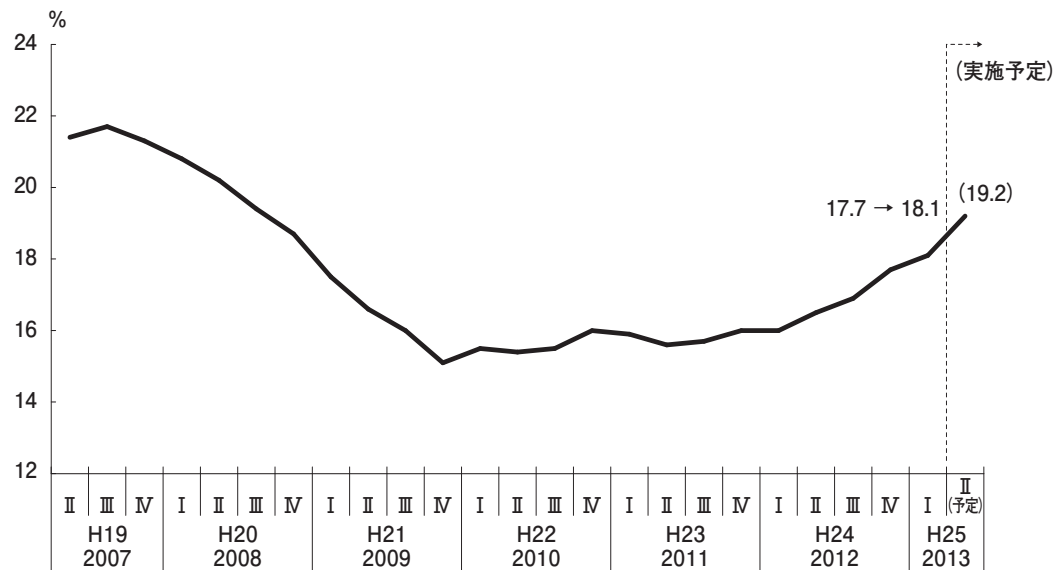
雇用人員：「不足」が「過剰」を上回る

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成25年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は18.1%と、前期（平成24年10～12月）の17.7%からやや増加した。4期連続の増加となり回復傾向が続いている。

また、来期（平成25年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は19.2%で、増加が見込まれている。

図表1 設備投資の実施割合（全体）－後方4四半期移動平均－



<注>来期実施予定割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

業種別に、設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、卸売業14.9%（前期14.9%）のみ横ばいで推移し、慎重な姿勢が続いている。他の業種はそろって増加した。製造業22.9%（前期22.7%）と小売業12.9%（前期12.5%）は小幅ながら、それぞれ8期連続、5期連続で増加し、サービス業19.9%（前期18.9%）は前期比1.0ポイントと比較的大幅に増加した。

なお、来期（平成25年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、全業種で増加する見通しである。サービス業は21.9%と他の業種に比べて大幅な増加を見込んでいる。

《 概要 》

□設備投資

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成25年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は18.1%と、前期の17.7%からやや増加した。

来期（平成25年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は19.2%で、増加が見込まれている。

□採算状況

当期の採算状況を採算DI（「黒字」-「赤字」）で見ると、▲13.0（前期▲14.7）と小幅ながら2期連続で改善した。

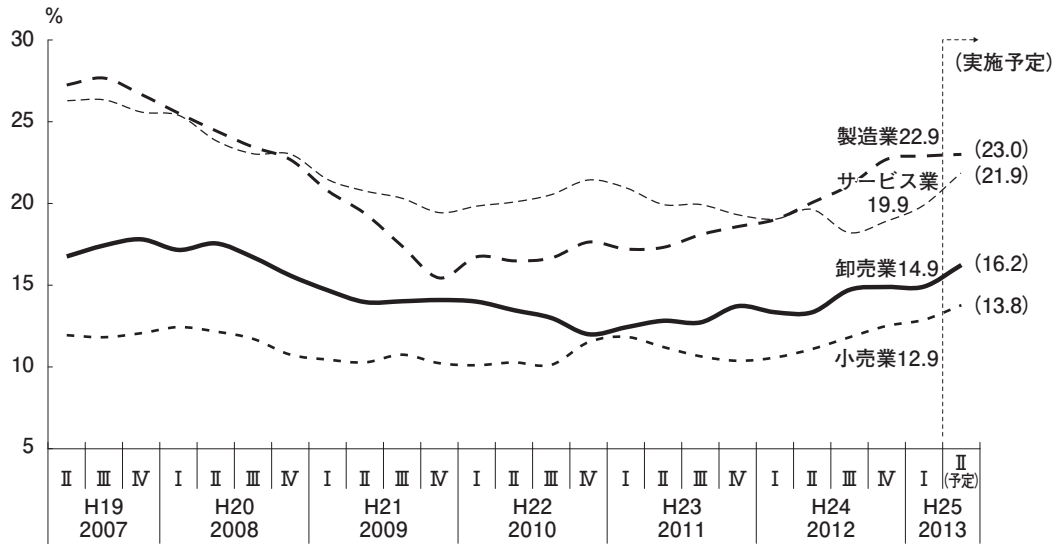
□資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）で見ると、▲25.1（前期▲23.8）と小幅ながら悪化した。

□雇用人員

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」-「過剰」）で見ると、2.0と前期（2.1）と比べおおむね横ばいとなり、「不足」が「過剰」をやや上回っている。

図表2 設備投資の実施割合（業種別）－後方4四半期移動平均－

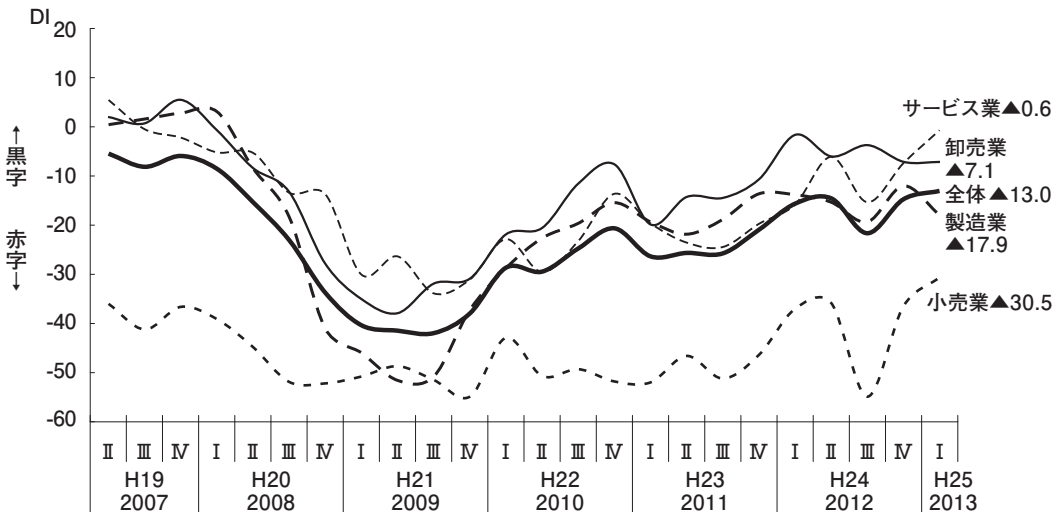


＜注＞来期実施予定割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

■採算状況■

当期（平成25年1～3月）の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）でみると、▲13.0（前期▲14.7）と小幅ながら2期連続で改善した。

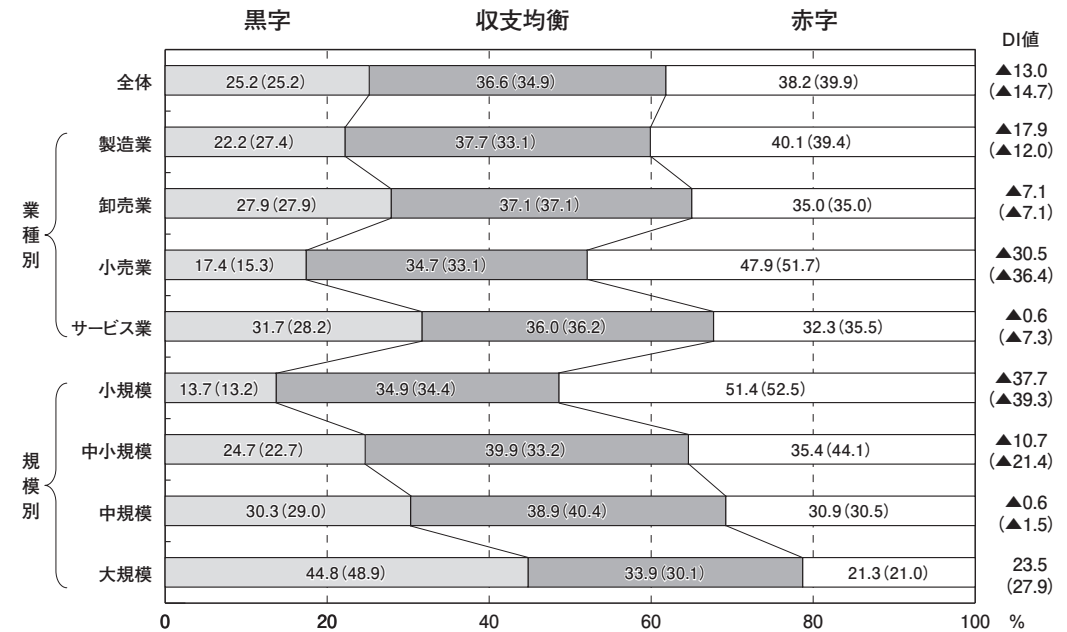
図表3 採算DIの推移



業種別にみると、製造業▲17.9（前期▲12.0）は5.9ポイント悪化し、改善した前期から戻す動きとなった。一方、小売業▲30.5（前期▲36.4）とサービス業▲0.6（前期▲7.3）はともに2期連続で大幅に改善し、サービス業はプラスへの転換をうかがう状況である。卸売業▲7.1（前期▲7.1）は横ばいで推移した。

規模別にみると、大規模23.5（前期27.9）のみ採算DIが悪化した。他の規模はそろって2期連続で改善し、特に中小規模▲10.7（前期▲21.4）で10.7ポイントと改善幅が大きい。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



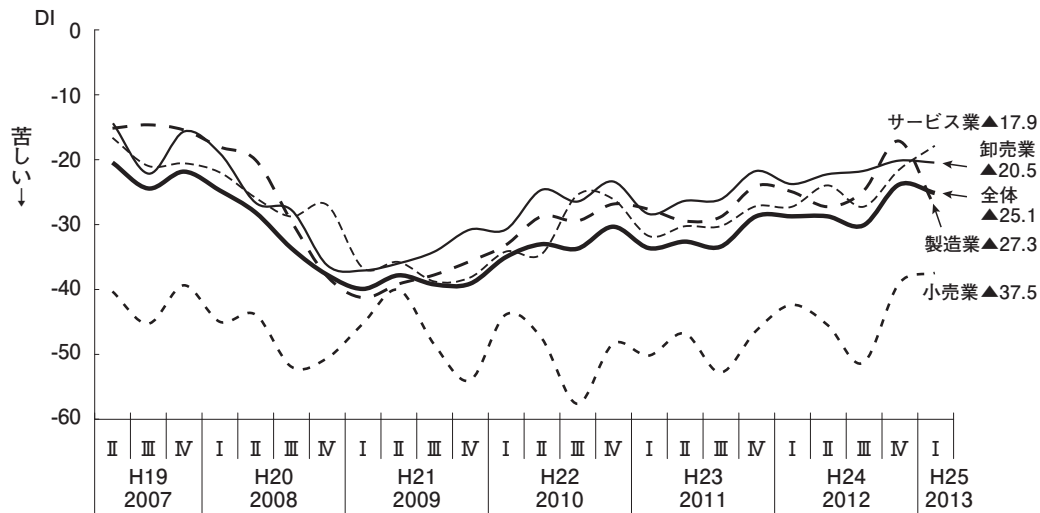
＜注＞カッコ内は前期（平成24年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■資金繰り■

当期（平成25年1～3月）の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）でみると、▲25.1（前期▲23.8）と小幅ながら悪化した。

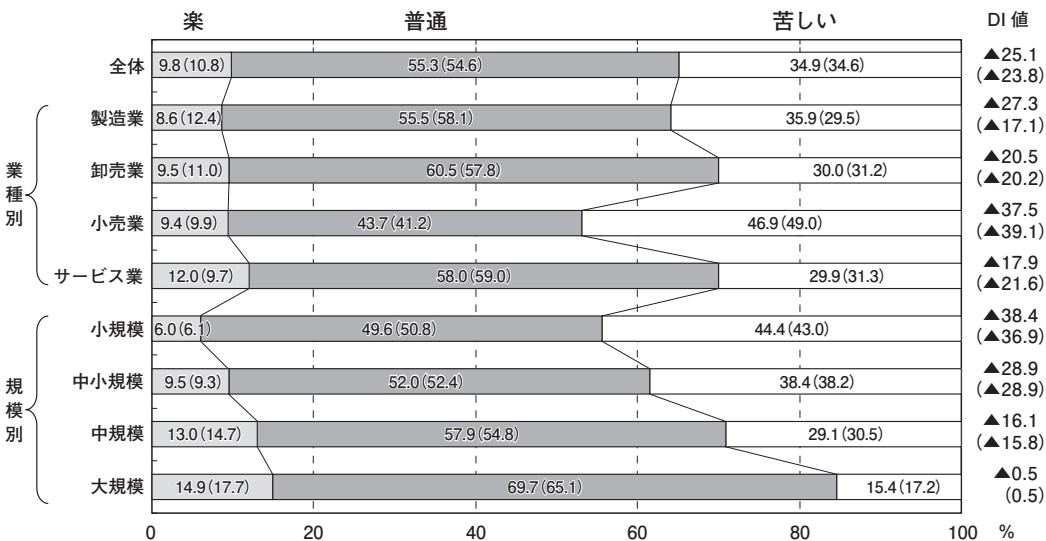
業種別にみると、製造業▲27.3（前期▲17.1）は10.2ポイントと大幅に悪化し、卸売業▲20.5（前期▲20.2）は0.3ポイントとわずかながら4期ぶりに悪化した。一方、小売業▲37.5（前期▲39.1）とサービス業▲17.9（前期▲21.6）はともに2期連続で改善した。

図表5 資金繰りDIの推移



規模別にみると、資金繰りDIは中小規模▲28.9（前期▲28.9）のみ横ばいとなったが、他の規模はそろって悪化した。小規模▲38.4（前期▲36.9）は1.5ポイント、大規模▲0.5（前期0.5）は1.0ポイント悪化し、大規模では前期にプラスとなったDI値が、再びマイナスに転じた。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

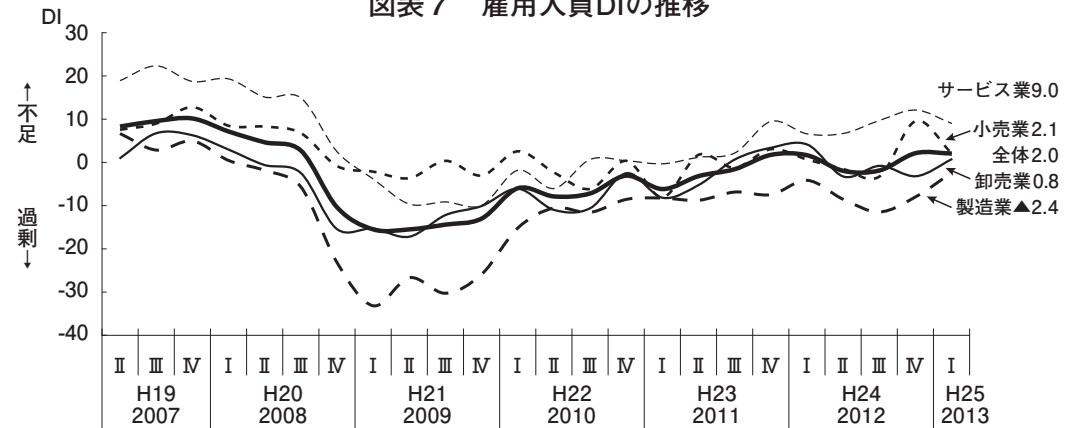


<注>カッコ内は前期（平成24年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■雇用人員■

当期（平成25年1～3月）の雇用状況を雇用人員DI（「不足」-「過剰」）でみると、2.0と前期（2.1）と比べおおむね横ばいとなり、「不足」が「過剰」をやや上回っている。

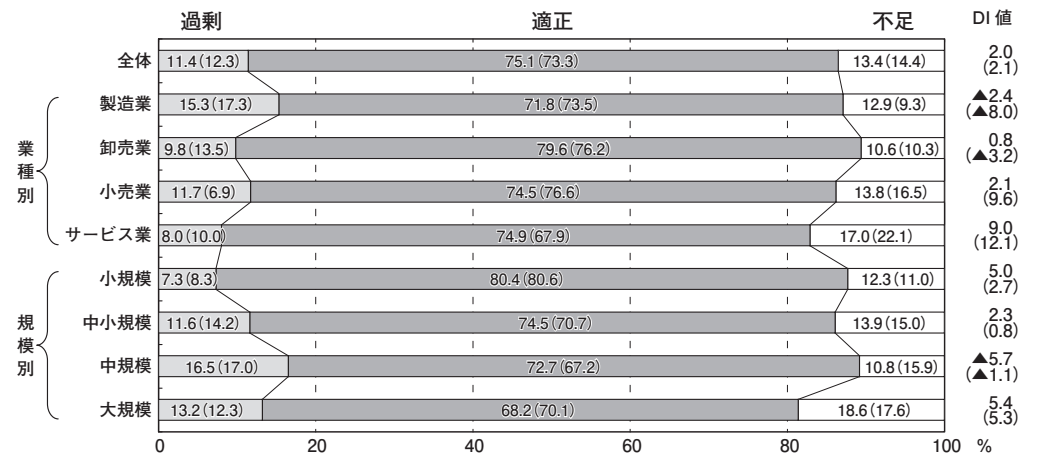
図表7 雇用人員DIの推移



業種別にみると、小売業2.1（前期9.6）とサービス業9.0（前期12.1）では「不足」が「過剰」を上回ったが、DI値は前期から低下しており、やや「不足」感が弱まった。製造業▲2.4（前期▲8.0）は「過剰」感が弱まり、卸売業0.8は均衡（0）に近づいた。

規模別にみると、中規模▲5.7（前期▲1.1）のみ「過剰」が「不足」を上回っており、「過剰」感を強めた。他の規模では、いずれもやや「不足」感を強めている。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



<注>カッコ内は前期（平成24年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。